



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場取引所 東

上場会社名 アルコニックス株式会社

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務本部長

(氏名) 宮崎 泰

TEL 03-3596-7400

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	44,961	△5.9	1,156	14.0	1,083	△15.2	1,378	87.3
25年3月期第1四半期	47,803	△13.0	1,014	△56.0	1,277	△48.4	736	△46.0

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 2,750百万円 (284.9%) 25年3月期第1四半期 714百万円 (△48.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	216.90	216.28
25年3月期第1四半期	115.86	115.37

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	82,308	18,085	21.4
25年3月期	70,382	15,818	21.8

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 17,602百万円 25年3月期 15,347百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	94,000	6.2	1,800	4.6	1,650	△18.1	1,150	13.3	180.92
通期	192,000	16.5	3,600	9.5	3,300	14.1	2,250	57.3	353.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、[添付資料]4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期1Q	6,356,400 株	25年3月期	6,355,200 株
26年3月期1Q	114 株	25年3月期	114 株
26年3月期1Q	6,355,679 株	25年3月期1Q	6,353,113 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(業績予想の記述について)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済が緩やかな回復を続ける一方、欧州経済は景気後退局面の底打ち感がみられるものの引続き低迷し、また中国及び新興国における景気減速、需要鈍化が鮮明となる等、まだら模様で推移いたしました。

わが国経済は、円安を背景に自動車を中心に輸出が緩やかに回復する一方、公共投資、住宅投資も増加し緩やかな景気回復を続けました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界においては、ハイブリッド車や、スマートフォン、タブレット端末向け需要が好調に推移するものの、パソコン等IT関連機器や液晶テレビ等家電向け需要は依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては、自動車部品用アルミ再生塊、空調機器向け銅管、及び半導体関連分野の取扱いが増加した一方で、家電、IT産業向けアルミ圧延品等が減少いたしました。また、レアメタル・レアアースの分野では、特にレアアースの取扱いが市況低迷、及び主要取引先の在庫調整の継続により前年同期比で大きく落ち込みました。利益面においてはレアアースが大幅減益であった一方、当第1四半期連結累計期間より当社グループに加わった国内連結子会社の**大羽精研株式会社**、及び前連結会計年度に連結子会社に加わり当第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した**大阪アルミセンター株式会社**、並びに海外連結子会社の**UNIVERTICAL HOLDINGS INC.**が連結業績に寄与いたしました。また**大羽精研株式会社**の株式取得、**大阪アルミセンター株式会社**の事業譲受に伴う負ののれん発生益を特別利益に計上したことから四半期純利益は大幅な増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高44,961百万円（前年同期比5.9%減少）、営業利益1,156百万円（同14.0%増加）、経常利益1,083百万円（同15.2%減少）、四半期純利益1,378百万円（同87.3%増加）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

#### ・軽金属・銅製品事業

当第1四半期連結累計期間におきましては、中国経済の低迷と日中関係の悪化によるマイナス影響は引続きあるものの、円高の是正により国内の自動車、大型二輪を取り巻くムードが改善、家電、半導体も底離れの傾向を示しました。また北海道、東北を中心とした建設需要も引続き堅調に推移いたしました。なお、利益面においては当第1四半期連結累計期間より連結子会社となった**大羽精研株式会社**の収益が寄与いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は17,900百万円（前年同期比10.7%増加）、セグメント利益は346百万円（同66.2%増加）となりました。

#### ・電子・機能材事業

電子材料分野では、太陽光発電関連部材が政府の補助金制度の延長を受け堅調に推移いたしました。また、米国景気の復調や円安効果により米国向け銅加工品の輸出取引が伸長し、低迷している中国の電力プラント向けチタン・ニッケル製品の輸出取引も、契約残の出荷、及びプロジェクトの再始動等により復調の兆しが見えてまいりました。一方、当社の取扱うスマートフォン、タブレット端末関連部材は季節的調整要因もあり若干低調に推移いたしました。レアメタル・レアアースの分野においては、特にレアアースの取扱いにおいて、市況の低迷に加え、国内主要取引先における在庫調整が継続したことから、売上、利益共に前年同期に比べ大きく減少いたしました。なお前連結会計年度に連結子会社化した米国のめっき材料メーカー、**UNIVERTICAL HOLDINGS INC.**が当第1四半期連結累計期間より連結収益に貢献いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は17,986百万円（同25.5%減少）、セグメント利益は517百万円（同49.3%減少）となりました。

#### ・非鉄原料事業

当第1四半期連結累計期間における国内アルミ合金地金の需給が、円高是正による国内合金塊の先高観が仮需を伴ったことにより、ややタイト気味に推移する中、当セグメントが取扱うアルミ輸入合金地金の売上は堅調に推移いたしました。また鉄鋼用脱酸材、製錬用銅スクラップの売上、及び亜鉛地金の輸出取引も増加していることに加え、当第1四半期連結累計期間よりアルミスクラップを取扱う**大阪アルミセンター株式会社**の収益取込を開始したことで、売上、利益共に大きく増加いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は8,092百万円（同26.5%増加）、セグメント利益は124百万円（同479.0%増加）となりました。

・建設・産業資材事業

当第1四半期連結累計期間においては、公共投資、住宅投資が増加する一方、民間設備投資は依然として低調に推移いたしました。また急激な円安によって素材・原材料価格が上昇いたしました。市場の縮小や復興・復旧の遅れによる需要低迷で、製品価格への転嫁が進まず、国内の建設産業資材・配管機材類の需要は引続き盛り上がり欠ける状態が続きました。一方で、円安効果によりアジア・中東諸国向け配管機材、及び銅合金素材の輸出・海外取引が好調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は2,905百万円（同1.1%増加）、セグメント利益は105百万円（同312.2%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

a. 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は64,335百万円であり、前連結会計年度末比8,980百万円の増加となりました。主な内訳は受取手形及び売掛金の増加5,538百万円、現金及び預金の増加1,915百万円、及びたな卸資産の増加1,444百万円であります。

b. 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は17,973百万円であり、前連結会計年度末比2,945百万円の増加となりました。主な内訳は当第1四半期連結会計期間より連結子会社となった大羽精研株式会社、及び同期間に事業を譲受けた連結子会社の大阪アルミセンター株式会社等における有形固定資産の増加2,081百万円、円安に伴う為替換算差額の変動による海外連結子会社の無形固定資産の増加338百万円、及び上場株式の時価評価に伴う投資その他の資産の増加526百万円であります。

c. 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は48,149百万円であり、前連結会計年度末比8,051百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の増加3,174百万円、短期借入金の増加3,043百万円、及び1年内返済予定の長期借入金の増加387百万円、及び未払法人税等の増加693百万円であります。

d. 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は16,073百万円であり、前連結会計年度末比1,606百万円の増加となりました。主な内訳は長期借入金の増加1,081百万円、及び繰延税金負債の増加148百万円であります。

e. 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は18,085百万円であり、前連結会計年度末比2,267百万円の増加となりました。主な内訳は利益剰余金の増加1,150百万円、及び為替換算調整勘定の増加938百万円あります。

② 経営成績

a. 売上高

主な売上高の増加要因は、自動車部品向けアルミ再生塊、半導体関連材料、銅製錬用銅スクラップ、省エネ対応空調機器の需要増加による銅管、及び配管素材用黄銅棒の輸出取引等であります。主な減少要因は、レアメタル・レアアースの輸入取引、化学プラント、発電設備向けチタン・ニッケル製品の輸取引、車載及び家電向け二次電池材料用ニッケル粉末等であります。また、当第1四半期連結累計期間より連結子会社となった大羽精研株式会社、前連結会計年度に連結子会社に加わり当第1四半期連結累計期間より収益取込を開始したUNIVERTICAL HOLDINGS INC.、及び大阪アルミセンター株式会社が連結業績に寄与いたしました。レアアースの取引が市況の低迷と取引先における在庫調整の継続により大きく減少し、この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比5.9%減少の44,961百万円となりました。

b. 売上総利益

レアメタル・レアアースの取扱いが減少した一方、非鉄原料事業関連の取扱いが増加したことに加え、当第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した連結子会社が寄与したことにより、当第1四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比20.1%増加の2,933百万円となりました。

c. 販売費及び一般管理費

当第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した連結子会社の費用計上により、当第1四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比24.4%増加の1,776百万円となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比14.0%増加の1,156百万円となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

前連結会計年度末より当第1四半期連結累計期間にかけて円安が進行したことにより外貨建決済取引に係る為替差損が発生したこと等から、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は73百万円の費用超となりました（前年同期は263百万円の収入）。なお、上記の為替差損につきましては、円安を背景とした売上総利益の大幅増益とトレードオフの関係にあります。

f. 経常利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比15.2%減少の1,083百万円となりました。

g. 特別利益、特別損失

当第1四半期連結累計期間より連結子会社となった大羽精研株式会社の株式取得、及び大阪アルミセンター株式会社の事業譲受に伴う負ののれん発生益839百万円を特別利益に計上した一方、保有株式の減損処理に伴う投資有価証券評価損等47百万円を特別損失に計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益1,878百万円から法人税等481百万円、連結子会社4社における少数株主利益18百万円を差引き、当第1四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比87.3%増加の1,378百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、平成25年5月17日の「平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました「3. 平成26年3月期の連結業績予想」の数値を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,082	12,998
受取手形及び売掛金	30,055	35,594
商品及び製品	11,727	12,491
仕掛品	388	1,086
原材料及び貯蔵品	321	304
その他	2,124	2,249
貸倒引当金	△345	△388
流動資産合計	55,355	64,335
固定資産		
有形固定資産	3,940	6,022
無形固定資産		
のれん	2,528	2,689
その他	3,530	3,707
無形固定資産合計	6,059	6,397
投資その他の資産	5,026	5,553
固定資産合計	15,027	17,973
資産合計	70,382	82,308
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,243	26,418
短期借入金	12,250	15,294
1年内返済予定の長期借入金	1,978	2,365
1年内償還予定の社債	600	600
未払法人税等	101	795
賞与引当金	406	621
その他	1,516	2,053
流動負債合計	40,097	48,149
固定負債		
社債	1,800	1,800
長期借入金	10,297	11,379
退職給付引当金	271	286
役員退職慰労引当金	166	178
長期未払金	73	159
その他	1,858	2,269
固定負債合計	14,467	16,073
負債合計	54,564	64,222

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,832	2,833
資本剰余金	1,874	1,875
利益剰余金	10,226	11,376
自己株式	△0	△0
株主資本合計	14,932	16,085
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	177
繰延ヘッジ損益	△36	34
為替換算調整勘定	367	1,305
その他の包括利益累計額合計	414	1,517
新株予約権	42	42
少数株主持分	427	440
純資産合計	15,818	18,085
負債純資産合計	70,382	82,308



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	47,803	44,961
売上原価	45,361	42,027
売上総利益	2,442	2,933
販売費及び一般管理費	1,428	1,776
営業利益	1,014	1,156
営業外収益		
受取利息	1	21
仕入割引	5	4
受取配当金	19	23
為替差益	240	—
不動産賃貸収入	11	13
持分法による投資利益	51	17
その他	22	27
営業外収益合計	353	108
営業外費用		
支払利息	59	82
売上割引	2	2
為替差損	—	61
手形売却損	12	8
不動産賃貸原価	3	3
その他	11	22
営業外費用合計	90	182
経常利益	1,277	1,083
特別利益		
固定資産売却益	0	—
負ののれん発生益	—	839
その他	—	3
特別利益合計	0	842
特別損失		
固定資産除却損	0	—
事務所移転費用	0	—
投資有価証券評価損	—	25
関係会社清算損	—	21
その他	—	0
特別損失合計	1	47
税金等調整前四半期純利益	1,276	1,878
法人税等	510	481
少数株主損益調整前四半期純利益	765	1,397
少数株主利益	29	18
四半期純利益	736	1,378

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	765	1,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△139	94
繰延ヘッジ損益	△49	72
為替換算調整勘定	62	1,027
持分法適用会社に対する持分相当額	75	159
その他の包括利益合計	△51	1,353
四半期包括利益	714	2,750
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	681	2,722
少数株主に係る四半期包括利益	33	28

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	16,098	23,157	6,240	2,307	47,803
セグメント間の内部売上高又は振替高	70	987	159	567	1,784
計	16,169	24,145	6,399	2,874	49,588
セグメント利益	208	1,021	21	25	1,277

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,277
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の経常利益	1,277

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	17,761	17,272	7,861	2,066	44,961
セグメント間の内部売上高又は振替高	139	713	231	839	1,924
計	17,900	17,986	8,092	2,905	46,885
セグメント利益	346	517	124	105	1,094

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度末に比べ、当第1四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、3,147百万円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,094
セグメント間取引消去	△10
四半期連結損益計算書の経常利益	1,083

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、大羽精研株式会社を全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。当該事象における負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては785百万円であります。

「非鉄原料」セグメントにおいて、アルミリサイクル株式会社より大阪アルミセンター事業を譲受けております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間において53百万円であります。